

事業所名

PARC（パルク）あしや

支援プログラム（児童発達支援）

作成日

2024年

11月

1日

法人（事業所）理念		子どもと大人が一体となり、感情の共有を通して心身共に健康に成長できるような居場所となる								
支援方針		一人一人の心の動きに寄り添いながら、トライ＆リトライを重ねるプロセスを経験できるよう支援していく								
営業時間		9時	0分	から	18時	0分	まで	送迎実施の有無	あり	なし
		支 援 内 容								
本人支援	健康・生活	週に一日1時間の個別療育が楽しみな時間となるようにし、子ども自身が通所することに対して目的意識を持って生活リズムを把握できるようにしていく。日中の活動の場となり、心身のパワーが発散できるよう配慮することで健康に過ごせるようサポートしていく。基本的な生活習慣の獲得のため、主体性を引き出しながら能動的にアクションを起こせるタイミングを尊重した見守りと必要に応じた環境支援を取り入れる。								
	運動・感覚	人工芝のカーペットや感覚統合遊具などを用いて、あそびを通して全身の感覚が統合されるよう環境設定を行う。スキンシップあそびなど人とのコミュニケーションも含めた五感を刺激する活動を取り入れることで、環境との相互作用によって充実感や安心感が得られる感覚を実感を伴いながら経験できるよう促していく。								
	認知・行動	指導員は興味関心に沿って様々な提案を行い、自己選択・自己決定ができるプロセスを経験できるようにする。試行錯誤する過程を十分経験できるよう配慮し、自分で気づき自主的に取り組むことができる能動性を育てていく。環境設定や提案を工夫することで、結果的に興味関心の幅が広がり見通しを緩やかにしたりイレギュラー時の対処法を身に付けられるようにしていく。								
	言語 コミュニケーション	能動的にアクションを起こせる環境を提供することで感情が動く瞬間を増やし、話したい・伝えたいというコミュニケーション意欲を高めていく。子ども達が発信するサインに大人が呼応する関わりを通して、伝わったという実感を積み重ねられるようにしていく。言語に限らず、表情や仕草、あそびなど様々な手段を通して自らの思いに自信を持ち発信できる環境づくりを行う。								
	人間関係 社会性	子どもを中心に、場に集う全ての人々が感情を分かち合えるような居場所となる。関係性構築を基盤に、強みを活かした役割を付与し人の役に立てる経験を積み重ねることで自己肯定感が向上するよう支援する。学校でも家庭でもない場所にて心身のレスパイトを行い、のびのびと自分らしく過ごせるような時間を提供する。								
家族支援		子どもの様子を客観的に観察できる時間を提供し、新たな気づきの場として活用できるようにする。困り感や気づきをいつでも話せる環境を確保し、レスパイトケアを行う。			移行支援		集団生活や社会生活に適応できるよう、それぞれの特性に対する対処法を身に付けられるよう支援する。外出や調理などの活動を通して余暇活動のスキルを身に付ける。			
地域支援・地域連携		地域の会や自立支援協議会など関係機関との連携を行う。学校園からの相談や共有があれば療育的視点での提案や助言を行う。			職員の質の向上		発達特性と支援の手立てについて研修等で学び専門性を高める。支援の中での気づきや変化は職員間で共有し、積極的に事例検討会を実施する。			
主な行事等		季節や社会イベントなどに合わせ文化に触れられるような行事を年4回程度実施する。長期休み期間に集団療育を実施する。母親向けイベント・父親向けイベントなど茶話会を開催する。								